

音が見える、音を感じる

「きこえない人」代表
開閉会式を演出
大橋 弘枝さん

「誰もが楽しめる」式典をコンセプトに掲げる東京デフリンピックの開閉会式。演出家2人のうち、「きこえない人」代表として起用されたのが、俳優、演出家、プロデューサーとして活躍する大橋弘枝さん(54)だ。ろう者による舞台芸術のパイオニアは「聞こえる人と聞こえない人、お互いの良さを生かして作品をつくりあげることがミッション」と張り切っている。



変化の輪 広がり続けて

佐賀県生まれで、2歳の時に聴覚障害があることが分かった。母の厳しい指導により、相手の口の動きを読み取り、声で返す「口話」を学んだ。ただ、栃木県で小学校から高校まで通った一般校では授業についていけず、美容師の夢も高校の進路指導で否定された。泣く泣く就職した地元の仕事場で、ろう者の従業員と出会って初めて手話を教わったことが転機になった。「自分の言葉を得て、きれいな箱が爆発したように自我が芽生えた」かつては聴覚障害のある自身にとっては「雑音でしかなかった」音楽が嫌いだ

た。だが、20代で聞いたで障害の垣根を取り払った。ジョン・レノンの「イマジンは、柔らかな雰囲気を感じることができ、衝撃を受けられた。友人に歌詞の米田サ一の近藤良平さん(56)と手話を教わって表現する楽しさを知り、1999年に視覚的な部分に力を入れ舞台作品のろう者の主役になる。豊富な経験を生かし、応募して俳優デビュー。2度渡米し、デフの劇団などで演劇を学んだ。

「見た人が感じた何かを誰かとも共有し、花がほんぽんと咲くように変化の輪が広がってほしい。それができただけ長く続く作品にしなければならぬ」と使命感に駆られている。

▲ 8月8日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

日常生活の場面でも、「音が見える」「音を感じる」場面はどうなっているでしょうか。現状やこの記事の記事を踏まえ、あなたの感じたことをまとめてみましょう。

